

| | | | |
|----------------------------|--|--|---|
| <p>こ ぎ こ</p> <h1>小木の子</h1> |  <p>HAPPY NEW YEAR</p> | <p>富士第二小学校 学校だより 平成29年 1月16日</p> |  <p>富士市制施行50周年</p> |
|----------------------------|--|--|---|



個の色 合わせて オレンジとなれ！(オレンジ色は富士二小のチームカラー)

あけまして、おめでとうございます。旧年中は、保護者、地域、関係諸団体の皆様には、本校の教育活動に多大なご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年の干支は「丁酉(ひのと)：鶏」、「酉」という漢字は、もともと酒つぼを描いたもので、「酒」に関する字に使われてきたそうです。収穫した作物から酒を抽出するという意味や収穫できる状態であることから「実る」ということも表します。ですから、果実が成熟した状態を表しているとされています。

また、鶏は「時告げ鳥」と言われるように、チャンスを逃さず、福を取り込むという意味でとても縁起がいい動物だと言われています。この縁起にあやかって、今年も実り多く、幸福な年となりますよう祈念いたします。



さて、お正月恒例の箱根駅伝の観戦は、私にとっては欠かせない年頭行事の一つです。

箱根駅伝は、東京の大手町の読売新聞社前をスタートして、箱根町芦ノ湖までを往復する全長217.1kmのコースを10人でつなぐ駅伝で、一人21km(富士駅から沼津駅まで)も走るレースですが、今年も、青山学院大学が一昨年、昨年に続いて3年連続優勝を果たしました。今から13年前、原晋監督が就任して、5年目にやっと出場できても、最下位22位だった大学です。

原監督は、中国電力に陸上選手として活躍が期待されて入社したものの十分な成果を残すことができず5年で退部、10年間中国電力の一介のサラリーマンとしてスタートした人です。その人が、今から13年前、安定した仕事を投げ打って退職し、退路を断って、裸一貫で青山学院大学の監督になることを選びました。

自分のため
ではなく
たずさわってくれた
全ての人々に
心の底から
感謝した時
ありえないパワーが
わいてくる

また、就任を認めてもらうためのプレゼンテーションで、就任して3年から5年で箱根駅伝出場、5年から9年でシード校に昇格、10年で優勝すると宣言したそうです。実際には優勝は1年遅れましたが、一昨年はワクワク大作戦、昨年はハッピー大作戦、今年はサンキュー大作戦で見事に約束通りの結果を残しました。

原監督の大切にしている言葉は「準備とこだわり」です。一人一人がしっかりとした目標を持ち、そのための準備をしっかりと行い、お互いに支えあって、あたり前のことをあたり前に、自分の意思でこだわりをもって取り組むことだそうです。

選手自身が考え、選手自身が主体的に取り組み、選手同士で励まし合うシステムを構築したからこそ、とんでもなく苦しい距離を楽しそうに笑顔で走る姿が見られたのだと思います。

子どもたちは、年の初めに、「あんなことがしたい。こんなことができるようになりたい。」とそれぞれが目標を立てたと思います。その目標に、みんなで支えあって、あたり前のことをあたり前にあきらめずに取り組んで、大きな夢を実現させてほしいと思います。

今年も72年の伝統の襷を受け継いで、子供たちが大きく飛躍できる一年となりますよう、職員一同心を合わせて取り組みます。昨年同様、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



- ・感動は人からもらうのではなく、感動を与えられる人間になろう。
- ・今日のことは今日やろう。明日には明日やるべきことがある。
- ・人間の能力には大差はない。あるとすれば、それは熱意の差だ。

これは、青学陸上部の寮の玄関に掲げてある目標です。

富士二小の子どもたちも、この目標のように、あたり前のことをあたり前に、熱意をもって取り組み、感動を与えられる人間に育ってほしいと思います。

また、2016年度の青学陸上部のキャッチフレーズは「個の色 合わせて 緑となれ」だそうです。それぞれがそれぞれの色で輝き、それが合わさって、チームカラーの緑色になってほしいという願いが込められています。

富士二小の個性豊かな子どもたちも、赤や青や緑など、それぞれの色で輝き、学校カラーであるオレンジ色を輝かせてほしいと感じます。

子育てポイント

幸せは、その人の心が決める

富士二小ホームページにも掲載しました「旅人と老人の話」にもありますように、環境というものは、その人がどのように考えるかで決まります。

環境に左右されるのではなく、まずは、今の環境を受け入れて、その中で、周りの人みんなが幸せになる方法を考えることが結局自分自身の幸せにつながるのだと思います。

